

古文復興

韓愈の生きていた時代の文章は、四字句や六字句によって対句を構成し、典故（過去てんこの詩文や出来事）の使用や押韻、平仄ひょうそくなどの制約が多い四六駢儷文しりくべんれいぶんが主流だった。韓愈は四六駢儷文を排し、先秦・秦漢の散文である「古文」に復古して、達意の文章を書くことを主張した。これを「古文復興」という。韓愈は次のように言う。

「私が古文を作るのは、今と異なる文章を学ぶ取ためだけではない。（中略）もともとは古道を目指しているのである。」（題哀辭後）

「古道」とは、上古の聖人の考えやその政治のことである。韓愈は古文を作ることで、そのなかにある古道を目指し、古道を学び取ろうとしたのであった。

韓愈の古文復興は、親友の柳宗元が賛同し、北宋の欧陽脩に至って完成した。それ以降、古文は中国の文章の主流となり、名文の規範として広く読まれるようになったのである。